

第13回 龍頭が滝案内

狭長神社の神事（流鏝馬の馬場はあったのか）

このコラムも、2年目に入りました。いつも読んでいただき、ありがとうございます。今年は、松笠だけではなく、近隣の地域のことも書きたいと思っていますので、よろしくをお願いします。

ということで、今回は『雲陽誌』の中から、掛合地区にある狭長神社の神事について触れたいと思います。『雲陽誌』には、掛合村の条にこう書かれています。

勝手明神

祭礼九月十九日 御幸 獅々舞 流鏝馬 十月十七日夜神楽あり

「勝手明神」とは、狭長神社のことです。狭長神社でも、夜に、出雲神楽が舞われていたようです。夜ですから、かがり火があったのかもしれませんが。旧暦の17日ですから、晴れた夜空には、立待月が見えたのかもしれませんが。

「御幸」というのは、祭礼の日に御神輿に神様を乗せ、神職、参列者が行列を組んで出発。「お旅所」という目的地に到着すると、そこで祝詞を奏上する、という神事のことだと思われます。神様を年に一度外にお連れして、気分転換していただく、ということなのかもしれません。

「流鏝馬（やぶさめ）」とは、疾走する馬の上から、3つの的に鏝矢（かぶらや）と呼ばれる矢を当てる、という伝統的な武術ですが、神事としては、天下泰平、五穀豊穡、万民息災、病気平癒を祈念する、という意味があるそうです。

狭長神社の流鏝馬は、明治時代に途絶えたため、どのような形で行われていたのか、今では想像するしかありませんが、島根県では、津和野町にある鷲原八幡宮で、毎年4月に行われています。これを参考に、その姿を想像してみましょう。

流鏝馬は、馬を疾走させ3つの的に射ることから、直線の、長い距離の馬場を必要とします。鷲原八幡宮の場合、馬場は幅27m、全長は250m近くもあります。狭長神社では、250mほどの流鏝馬の馬場が設営できたのでしょうか。

国土地理院ホームページにある地図を利用しながら、いろいろ想像していくと、狭長神社から下流方向に真っすぐ伸びる、流鏝馬の馬場ができました。今では建物が立ち並ぶ地域ですが、狭長神社に向かって、馬が疾走してくる姿が見えてきませんか？

